

目指す学校像	大宮南小学校で学ばせたいとの期待と信頼に応えられる学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 個別最適な学びと協働的な学びの実現、GIGAスクール構想の推進 2 安全・安心の教育環境の整備と教育相談体制の充実 3 コミュニティースクール実施校初年として、学校・家庭・地域のさらなる連携強化 4 働き方改革の一層の推進、学校課題研究の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度			年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○さいたま市学習状況調査(生活習慣に関する調査)では、ほぼ全ての質問で、市の平均を上回っている。 ○日頃の学習の様子から、タブレット端末を活用し、自分の意見を発信したり、友だちの意見を閲覧したりすることに意欲的に取り組んでいる。 <課題> ○全国学力学習状況調査で、国語科の「読むこと」に課題がある。 ○探究的な学習に関して、深まらない児童が多い。 ○タブレット端末の利用は進んでいるが、教員による利用の格差がある。	○個別最適化と協働的な学びに向けたタブレット端末の活用と授業改善	①全国及び市の学習状況調査の最新の結果をもとに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、学校全体の児童の学力向上を図る。 ②ドリルパーク・スタディアプリの活用により、国語・算数の基礎・基本の徹底を図る。加えて、オアシス・ムーブメントの活用により、協働的な学習を推進する。	①調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。 ②学期毎にタブレット活用調査を実施して、利用率が70%以上となったか。				
		○学ぶ楽しさを実感できる「大宮南小 STEAMS TIME」の実施	①「大宮南小 STEAMS TIME」において、探究的な学習を行う。	①指導計画通り、「大宮南小 STEAMS TIME」を実施できたか。 ①STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。				
2	<現状> ○さいたま市学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいですか」の設問で、肯定的な回答が市の平均を上回った。 ○「心と生活のアンケート」要面談者は、第1回は17.9%であった。 <課題> ○コロナ禍によるストレスや生活環境の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、児童一人ひとりの変化にいち早く気づき組織的に対応することが課題である。 ○仮設校舎建築(R4.11~)に伴い、児童が安全に学校生活を送れるようなルール作りが課題である。	○児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の充実	①定期的な生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会を開催する。 ②年2回児童理解研修を行う。	①学校評価アンケートの関連項目(2つ)で肯定的な回答の割合が85%以上となったか。				
		○安全・安心の教育環境の整備	①毎月の安全点検の確実な実施と修理・修繕等安全管理を徹底する。 ②仮設校舎建築に伴い、校内安全ルールを作成する。 ③けがマップの更新を行う。	①学校評価アンケートの関連項目(2つ)で肯定的な回答の割合が85%以上となったか。				
3	<現状> ○昨年度学校運営協議会準備委員会において、「子ども達にどのような力を身に付けさせたいか」について熟議を行い、「豊かにコミュニケーションが図れる力」という結論が出た。 <課題> ○目指す子ども像に向けて「学校・家庭・地域が一緒にできることは何か」の熟議を行うが、具体的な方策を見出せるかが課題である。 ○学校運営協議会での議論を家庭・地域にどのように広めていくかが課題である。	○学校運営協議会の充実	①学校運営協議会を年間3回実施する。	①学校運営協議会委員へのアンケート該当項目において肯定的な回答の割合が90%以上となったか。				
			②学校 web ページにコミュニティースクールのサイトを新設して、情報を家庭・地域に広める。	②サイトの更新を年5回以上行ったか。				
4	<現状> ○過去2年間、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「体育科」の研究を進めてきた。 ○コロナ禍で学校行事・諸会議の精選を進めたことで職員の在校時間の縮減につながった。 <課題> ○今年度から学校課題研究として、「ユニバーサルデザインと個別最適な学びの視点を踏まえた授業改善」～「わかる」「できる」と感じる全員参加の授業を主題として研究を進める。 ○With コロナの教育活動の模索	○校内研究体制の充実	①授業研究中心の研修計画を立てる。 ②外部講師を招いて研修会を行う。	①研修に関する教職員へのアンケートで肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②外部講師による研修会を2回以上、授業研究会を2回以上行ったか。				
		○質的な働き方改革の推進	①当初面談において、質的な業務改善への取組を指導助言する。 ②業務の平準化を視点とした校務分掌の見直しを行う。	①教職員への独自アンケートにおいて肯定的な回答の割合が95%以上となったか。				